

【授業の到達目標および概要】

本授業の到達目標は、①食行動およびそれに関連する行動に関する心理学的な英語の研究論文を精読できるようになること、②食行動に関する心理学的な理論を理解し、説明できるようにすることである。

食行動を心理学的なアプローチの水準からとらえた場合、①動物としての「ヒト」の水準、②個人としての「人」、③社会文化的存在としての「人間」の3つが考えられる。また、「食べる」行動を心理学の領域からとらえた場合、①神経科学、②学習・動機づけ、③文化・社会、④健康・臨床、⑤発達の5つがあげられる。

今年度は、Shepherd, M. & Raats, M. (Eds.) *The Psychology of Food Choice* を講読する。また、食行動の発達の研究について人との相互作用の視点から紹介していく予定である。

【授業計画】

- ① 心理学からみた食行動についての概説
- ②～⑤ 受講生の分担した英語論文についての発表
- ⑥ 食行動の発達心理学の最近の動向について
- ⑦⑧ まとめ

履修者の人数によって、時間配分を変更することがある。

【授業外学習】

担当部分を精読した上で、レジュメを作成してください。心理学的な用語が出てきますが、有斐閣「心理学辞典」、平凡社「最新 心理学事典」などを参照しながら、ていねいに準備をしてください。

【成績評価の方法・基準】

発表内容・議論への参加度（60%）、レポート（40%）によって評価する。

【教科書】

随時プリントを配布する。

【参考書】

参考文献、資料等については、授業の際に指示する。

【教材】

特になし。